

令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ①放課後児童健全育成事業の目的及び制度内容

- ◆ 少子高齢化が進んでいる中で、共働き家庭の増加や女性の就業率が高くなったことで放課後児童クラブは必要不可欠だと感じました。クラブ数が増えても、待機児童は発生しており、受け皿を拡大する取り組みが行われていることを学びました。支援員の資格を取得することで、役に立てることが増えればいいなと感じました。子育てと仕事の両立を支援できるように努めていきたいと思いました。
- ◆ 放課後児童支援員として、職務を遂行するための知識、技能、現場で実践する際の基本的な考え方、心得について学びました。これからは、専門性を高めるために研修を受け、支援員の資格を取得することによって利用者の方々が安心して子どもを預けられる場所となるように取り組んでいかなければいけないと思いました。放課後児童クラブの活動では、様々な資格を持った人たちが、共通の意識・基準をもって取り組んでいけるようにしていきたいです。
- ◆ 秋田県内の放課後児童クラブの現状や数の推移を知ることができて良かったです。子どもの数は減っているのに対し、それでもクラブ数が増えているのは、それだけ需要のある職だということであり、それに伴い世間からの期待や責任も増していくのだろうと感じました。設備運営基準等をよく把握し、この職の役割をよく理解して仕事に向き合っていきたいと思いました。
- ◆ 放課後児童クラブの設備運営基準について細かい決まりがある中で、遊びを主体とし、健全育成を図っていくことなどを改めて確認することができました。また、すべての資格者が同じ共通認識をもてるよう、今受講している放課後児童支援員認定資格がとても大切であることが理解できました。子どもの人数が減少していても、放課後児童クラブ数は増加し、利用する子も増えているということを知り、昔とは家庭環境も変化していることも分かりました。
- ◆ 少子化が進んでいる中、放課後児童クラブの需要が増えていることを知りました。女性の社会進出による共働きが大きな要因であることや特に高学年の利用児童が増えていることを知り、利用する保護者にとって、安全で安心できる放課後児童クラブでありたいと思いました。また、学習や遊びの場だけでなく、生活を重視する場であり、遊びを通してルールを知ることや、順番を守ること、異年齢との交わりの良さを大事にしていきたいと思いました。